

【荒金鉱山と供養塔】

荒金バス停の近くに供養塔があります。これは昭和18年の鳥取大地震の折り、荒金鉱山の沈殿物堆積所の鉱泥の流出によって亡くなられた荒金住民・鉱山労働者等の御霊を祭るためのものです。

荒金鉱山の歴史は古く、和銅年間(708~715年)に銅を献上したという記録が残っています。今の荒金鉱山の出発点は、明治30年の露頭発見といわれ、その最盛期は大正15年から昭和10年頃までで、従業員は530名と記録されています。

当時の国内情勢では、大正7年にはシベリア出兵があり、昭和6年には満州事変、昭和12年には日中戦争が起こり、金属の需要が高まったことも生産量の増加を促したといえます。

また、兵隊動員のため、国内の労働力が不足し、政府は朝鮮総督府を通して昭和14年より植民地支配下の朝鮮半島及び中国より労働者の連行を行いました。荒金鉱山には62名の配属が記録されています。ただし、長い人でも数年の勤務で次の場所へ移動させられました。

昭和18年9月10日17時36分、鳥取大地震が発生し、鉱泥が飯場、社宅2棟、荒金民家15棟を押し流しました。関係地元住民の必死の救出作業にもかかわらず、日本人37名、半島からの配属者とその家族28名が犠牲になりました。遺体収容は困難を極め、遺族の願いもむなしく今もなお20余名の遺骨が泥中に埋もれたままです。

昭和47年、吉田達男氏は、この地に眠る遺骨の掘り起こしを計画しましたが、膨大な予算が必要のため断念、翌昭和48年、「荒金鉱山に眠る韓国朝鮮人、日本人を祀る会」を発足させ、慰霊祭を開始しました。以後毎年、命日(9月10日)にはこの会(荒金部落役員、韓国居留民団等)により御霊を慰め供養する慰霊祭が行われています。吉田達男氏は、小学校2年生のとき、救助動員として救助に出動した母親から被害の悲惨な話を聞かされ、子ども心に胸を痛めたということです。

平成9年には「岩美町日韓友好事業実行委員会」が設立され、以後この委員会は「祀る会」と協力して5年ごとに盛大な慰霊祭を行っています。今年5年目にあたり多くの関係者が参加して慰霊祭が行われました。

第15回 岩美町部落解放文化祭

- 【1】趣旨 心豊かな生活づくりのための文化活動を推進するとともに、周辺住民との交流を促進し、部落差別をはじめあらゆる差別の解消を図る。
- 【2】主催 岩美町部落解放文化祭実行委員会
- 【3】日時 平成19年11月17日(土)~18日(日)
1日目 午後1時~4時30分
2日目 午前9時~午後3時45分

【4】会場 岩美町文化センター

《作品募集要項》

- ◎出品者 本庄地区居住者及び勤務者(町内)
(但し、本庄地区以外の方でも出品を希望される方は、文化センターまでご連絡ください)
- ◎部 門 絵画・書道・写真・手芸・工芸・盆栽・生け花・人権標語&作文等
- ◎規 定 特に定めませんが、額に入れたり枠張りには、出品をされる方をお願いします。
- ◎出品数 制限はありません。
(但し展示会場が不足する場合は、同一人の作品は制限します)
- ◎搬 入 11月12日(月)~11月14日(水)の
8:30~17:00 まで

持ち込みが困難な場合は、文化センターへ連絡してください。
(注)生け花は出品者の方で、11月16日(金)の午後5時~7時頃の間に生けていただきます。

- ◎その他 チャリティバザーを行いますので、皆様のご家庭で不要品等ありましたら、11月12日(月)までに文化センターまで届けてください。なお、持ち込み困難な場合は、ご連絡ください。
(バザー収益金は、町社会福祉協議会へ寄付させていただきます)

あなたの作品をお待ちしています

問い合わせ先 岩美町文化センター
☎72-1931

部落解放講座を開催します

テーマ 「部落」「差別」って何?

自分たちが思ってきた「差別」って何なのでしょう。「部落」って何なのでしょう。

もう一度立ち止まって考えてもいい時期ではないでしょうか。

- 【日時】平成19年10月13日(土)
午後1時30分~午後3時
- 【講師】鳥取市立千代保育所 瀬戸根 美智代さん
- 【演題】「こどもが光り輝くとき」
- 【問い合わせ先】岩美町文化センター ☎72-1931